

問題を如何に處理し、その闘争の成果をどこへ統一するかが極めてあまいになり、活動が分散的になつて了つて、思ふやうな効果を擧げることが出来ない。會つて渡政が、あらゆる中心分會に「工場組織ナーゼ」を作らせ、その工場は一切の活動を、その方針に基いて敢行させたといふことは、有名な話だが、我々は、その方法に倣ふべきだ。(一)ところで、工場内の基本的闘争方針をたてるためには、先づ詳細なる工場内状態の調査を行ふことが、絶対に必要だ。客觀的状态に適應しない觀念的な戰略をたてたところで、それは見敵に等しい。

(二)工場内状態の調査としては、少くも次の事項が調査されなければならない。

- 一、労働條件に關する調査(賃銀、労働時間、工場設備等に關するもの)
- 二、従業員數並にその職場別(男、女、青年、労働者數、並に職場別數)
- 三、會社の工場經營方針(合理的工場施設の程度、従業員に對する方針——温情主義か露骨なる搾取方針か——工場監督組織、徒弟教育の方針、等々)

それ以外にも、知つて置かなければならないことばうんとあるが、工場内の状態は、ほぼ正確に擧める。我々はそれに基づいて、適當な闘争方針を作ればよいのである。(三)例へば、或る工場が、次のやうな状態に在る工場とする。

- 一、従業員約五百。
- 二、労働時間は割合に短い賃銀は安い。
- 三、合理的工場施設は行はれてゐない。
- 四、資本家は温情主義で來てゐる。
- 五、全従業員参加の共済組合がある。
- 六、總同盟へ約半數の従業員が入つてゐる。
- 七、在郷軍人の工場分會はないが、本願寺の坊主が、毎月來て説教をする。
- 八、營業状態はよくない。
- 九、一般従業員は、ガラ幹を信用してゐる。
- 十、スポーツ團はないが、野球熱が盛んだ。
- 十一、朝鮮人労働者はゐない。
- 十二、表面時計工場だが、實際は、飛行機の器具を作つてゐる。

四、工場委員會的組織の有無(資本家的工場委員會、共済組合、親睦會、等々の如き)

- 五、労働組合組織の有無(各組合組織がどの位あるか?並にその職場別分布状態)
- 六、在郷軍人分會、修養團、その他反動團體の有無
- 七、會社の營業状態(特に没落的傾向の有無)
- 八、従業員の思想的傾向
- 九、工場の闘争歴史
- 十、スポーツ團、讀書會、等々の有無
- 十一、朝鮮人労働者の有無
- 十二、工場製品の調査(何を作つてゐるか、中心職場は何か)
- 十三、資本系統
- 十四、取引關係(材料仕入先、製品販賣先、姉妹工場)
- 十五、寄宿舎の有無
- 十六、最近に於ける首切り賃下げ労働強化の事實、並に今後の豫想

(ホ)大體以上の諸項目に就いて調査をすれば——無論に

十三、寄宿舎はない。
十四、大正十二年に争議をやつたことがあるだけでその後は、一回も争議をやつてゐない。従業員の約半數は、當時の争議に参加してゐる。
十五、大資本の背景はないが國庫から補助を受けてゐる。

- 十六、一昨年の暮に二十人ほどの首切りがあつた。近く賃下げがありさうだが、従業員は比較的ノンキにかまへこんでゐる。
- (ト)一體こんな状態の工場だつたら、どんな闘争方針を樹て、進むべきであるか?大體以下のやうな方針が樹てらるべきである。
 - 一、賃下げに對する警告を執拗に行ふこと。
 - 二、温情主義の本質を事々に暴露すること。
 - 三、ガラ幹に對する暴露(彼等を信頼してゐることの危険を、實例と擧げて徹底的に暴露する。)
 - 四、共済組合の自主的工場委員會化の運動を急速に捲き起すこと。(殊に共済組合の積立金を争議の場合の資金に自由に使用できるやうにしなければ駄目だと